



演劇に育てられ

(株) エフ設計コンサルタント

天野 大 (AMANO HIROSHI)

建設部門, 上下水道部門, 環境部門

総合技術監理部門

1. はじめに

はじめて芝居をしたのは、小学校の学芸会だ。「バラの使者」と記憶する。王様の監察官がまちにやって来る。その使者を迎えるまちの人たちの思惑・行動を動物たちに反映した劇だ。私は、キツネの八百屋役。キツネのお面を頭に付けて、この劇のために母が買ってくれたきつね色のセーターを着る。本物の使者を偽ものと勘違いして、野菜・果物に付けた値札をひっくり返すと、裏には高価な値段が書いてある。利に賢い・・・小ずるい悪役だが、その値札ひっくり返しが会場から大いに受ける。

次の出会いは、劇団新制作座の「泥かぶら」だ。学校の課外授業として、市民会館へ初めて生の芝居を見に行った。汚い格好の少女が見事な変身を遂げる内容だった。

あと、記憶に残っているのは、テレビ放映された「森は生きている」だ。冬休み、炬燵に入って見た。花の咲かぬ真冬に、いたいけな少女が花を探して雪の森の中へ入る。十二月の精霊たちに助けられ、マツユキソウを見つける内容だったか。

芝居との縁は、これで終わり・・・と思っていた。

2. 帰郷、そして演劇との出会い、ひととの出会い

学生時代を県外で過ごす。帰ってきたのは、長男で跡取りであることと、国外志向であった私に「社会人になっても、海外旅行はいつでも行けるよ」と言う両親の甘い言葉だった。当時、就職氷河期と言われ、それでも県内で職にありつけた幸運もあった。残念ながら、公務員の場合、頻繁な海外旅行は難しいと感じる。部署にもよるだろうが。

さて、新社会人の2年間は、剣山の南側を管轄する土木事務所に勤務した。土日は実家のある鳴門に帰る。母に演劇鑑賞の趣味があり、彼女が行けない時は、私にその切符が回ってきた。あとから聞いた話だが、彼女が観たかったのは前進座の歌舞伎だけ。それも、年間1本あるか無いかのもの。ともかく、私には、それが物心ついてから芝居を観るキッカケとなった。残念ながら、その時観た芝居の内容は、トンと記憶に無い。

就職3年目、鳴門周辺を管轄する土木事務所に異動した。ここで、出会いがあった。同期で、演劇を観ようと熱心に誘ってくれたAさんだ。当時職場にいた18~25歳の若者10数人で「アルカディア」というサークルを結成した。演劇鑑賞だけでなく、音楽鑑賞にもその名称を用いた。また、旅をするときは「羈旅(きりよ)の会」と称して、四国

内外を旅した。懐かしい青春の思い出だ。

20年後、先に技術士となっていた彼から技術士受験を促される。私にとって先達であり、師でもある。

「アルカディア」の由来は、次のとおり。これは、私の希望が通った。

- ① ギリシャ語「arcadia」で、牧歌的理想郷
- ② 当時流行っていた松本零士の「キャプテン・ハーロック」の乗る宇宙戦艦の名前

その後、サークルは変遷を重ねるが、現在残っている当時の仲間は、私ひとりだ。

途中、O製菓に勤めるTさんが仲間となる。この方も、私の人生に大きな影響を与えた。研究者で、とても忙しく、1年間まったく観ることができない年もある。それにもかかわらず、年の始めに1年間分の会費を先払いしてくれる。何と奇妙な……。実は、後（2001年）にノーベル化学賞を受賞された野依良治さんが彼の恩師だ。

1993年、そんな彼から手紙が届く。「現在、鳴門地域例会として演劇鑑賞会をしている。それを発展させ、鳴門で演劇を観る組織として独立させたい。その手伝いをしてもらえないか？」熱い内容が連綿と続く。人生意気に感ず！こんなラブレターをもらうと、放ってはおけない。押っ取り刀で、この活動に参加する。のちに、彼は二代目代表幹事になる。劇団とのインタビュー記事は、初回から彼が書き続けている。演劇フリーク？

3. 鳴門市民劇場の組織運営

※

現在、全国に129の演劇鑑賞団体がある。そのうち、毎例会会員数を増やし続けているのは、3団体。そのひとつが鳴門市民劇場だ。なぜ、そんなことが可能なのか？

その素因を考えてみた。 ※ 例会：演劇鑑賞の定例会のこと。四国では2ヶ月に1回例会がある。

(1) 組織・構成

その生い立ちに、そもそもの素因があると考ええる。

鳴門市民劇場として徳島市民劇場から独立すると決めた時、この活動に賛同し、参加した人たちがいる。その数、20数名。熱い議論の末、組織の意思決定は「幹事会」とした。それも20数名の幹事の多数決だ。「事務局長」や「代表幹事」ではない。それゆえ、各人の意見を尊重する。だからこそ、毎回の幹事会では、侃々諤々の意見が飛び交う。民主主義は、しんどい作業だ。まさに、ここから組織の団結力や助け合いの心が培われる。それが今の躍進のエンジンになっていると思う。もちろん、重要な意思決定は「総会」だ。次が「サークル代表者会」。それを支えるものとして「幹事会」「代表幹事」「事務局長」がある。

2ヶ月に1回、毎例会前に、席割り作業を含めた「サークル代表者会」を行う。常に70～80名の会員が参加する。これがこの組織の風通しのよさと連帯感を産んでいる。

(2) 人材

また、「組織は人材だ」と言われる。

幹事の内訳は、教師・教師OB、公務員・公務員OB、某大手製薬会社の社員等だ。一般に社会では信頼される人たちだ。だからこそ、ネットワークが強靱になる。才能も多彩だ。コンピュータ管理者から経営者、研究者、芸術家まで。そんな人たちが集う自由な雰囲気がある。

どんな作業があるか？ホームページ作成と維持管理、機関紙作成、感想文集作成、宣伝、企画、財政、会計監査など、やることはたくさんある。もちろん、公演当日の役者・スタッフお出迎え、舞台への道具搬入やロビー飾り付け、役者インタビュー、受付、機関紙配布から会場アナウンス、花束贈呈、終演後の道具搬出や劇団との交流会、そして、翌日のお見送りまで。演劇を観るだけでない生の役者と触れ合う楽しみ、感激・感動がある。

(3) 若者・よそ者・馬鹿者

組織にとって重要なのは、その構成員だ。組織が健全に育つには、必要な要素がある。どれだけ若者がいるか？よそ者がいるか？それに乗る馬鹿者がいるか？

その視点で、鳴門市民劇場を観るとどうだろう？存外、「よそ者」が多い！そんな組織だから、存続する。新しい風が入ってくる。現幹事の郷里を示す。(表-1)

表-1 幹事の郷里

	鳴門 市内	県内 (鳴門市外)	県外	合計 (人)
女性	4	7	3	14
男性	3	4	4	11
合計	7	11	7	25

面白いのは、幹事の男女比が4:6であることだ。劇団の制作によると、全国では女性幹事の比率が高い。男性が運営にこれほど関わっている組織は珍しいらしい。

ここ1年で、3人の若者（といっても40代）が幹事になった。入会してすぐの方もいるから、この会の運営によほど魅力があるのか。頼もしい限りでもある。その要望で、新たなSNSにも取り組んでいる。これが時代の風・流れに乗るとのことだろう。

(4) 幹事主導からサークル活動本流へ

サークル活動を支える組織として「幹事会」がある。当初は、全国の活動を見よう見まねで「幹事」主体でやって来た。しかし、社会経済の低迷・低調の波も受け、創立前には最大1,150名であった会員数も600台にまで落ちた。一部の会員（幹事）の奮闘だけでは、組織を維持できない。成果を上げている団体に教を請いに行った。何が必要か？

そして、会員それぞれが属するサークル主体の活動へと舵を切った。それが功を奏した。また、その端緒となった演劇内容・役者がよかったのか。2013年3月例会、前進座「夢千代日記」から会員数が増に転じた。以降、微増ながら5年間会員数の連続増（クリア）を続けている。

【閑話休題】

大事なのは、自らが関わること。「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら」と言う。鳴門市民劇場では、ボランティア精神「できる人が できる時に できる事を」が要求される。演劇を観るだけではない。道具の出し入れを手伝い、役者を送迎し、機関紙原稿を書き、HPの維持管理を行う。社会貢献したい人・人生を謳歌したい人を、いつでも大歓迎・大募集中だ。きっと、あなたの期待は裏切られないと思う。

4. 近況報告

鳴門市民劇場は、今年の6月で創立20周年を迎えた。

私自身、どのような演劇を観て、どのような感想をもったか？

この2年間で11例会の感想文で振り返る。(表-2)

表-2 これまでの例会

開催年月	タイトル	劇団・企画	作者など	主な出演者
2017年 1月	さくら色 オカンの嫁入り	CATプロデュース	原作：咲乃月音 脚本：赤澤 ムック 演出：西川 信廣	佐藤 アツヒロ 熊谷 真実 正司 花江
3月	七人の墓友	劇団俳優座	作：鈴木 聡 演出：佐藤 哲也	小笠原 良知 可知 靖之 遠藤 剛
5月	からまる法則	劇団銅鑼	作：小関 直人 演出：松本祐子(文学座)	千田 隼生 佐藤 文男 設田 太郎
7月	みすてられた島	青年劇場	作・演出：中津留章仁	葛西 和雄 藤木 久美子 広戸 聡
9月	吾輩はウツである	劇団朋友	原作：長尾 剛 脚本：瀬戸口 郁 演出：西川 信廣	芦田 昌太郎 荘田 由紀 小島 俊彦
11月	ミュージカル 「青空の休暇」	イツフォーリーズ	原作：辻 仁成 演出：鶴山 仁 脚本：中島 淳彦	駒田 一 宮川 浩 井上 一馬
2018年 1月	三婆	劇団文化座	原作：有吉佐和子 脚色：小幡 欣治 演出：西川 信廣	佐々木 愛 阿部 敦子 有賀 ひろみ
3月	砦	トム・プロジェクト	作・演出：東 憲司 原作：松下竜一「砦に拠る」	村井 國夫 藤田 弓子 原口 健太郎
5月	もやしの唄	テアトル・エコー	作・演出：小川未玲	根本 泰彦 吉川 亜紀子 松澤 太陽
7月	もし、終電に乗り遅れたら・・・	俳優座劇場プロデュース	作：A・ヴァムピーロフ 翻訳：宮澤 俊一 五月女 道子 演出：菊池 准	浅野 雅博 小田 伸泰 外山 誠二
9月	柳橋物語	劇団前進座	原作：山本周五郎 脚色：田島 栄 演出：十島 英明	今村 文美 浜名 実貴

(1) さくら色 オカンの嫁入り

徳島会場へ観に行く♪ あわぎんホールは、800名収容の会場。声もよく聞こえ、芝居の意味もわかった (^_^)v

年の初めに観る劇として、笑いあり、涙ありで良かった。

特に大家役：正司花江さんのサービス精神旺盛で、自然体の演技に、重いストーリー展開が救われた。これまで観たなかで、一番良かったという会員もいた。

【捕捉】満開の桜のなかで、オカン役：熊谷真実さんの白無垢姿は艶やかであった。

(2) 七人の墓友

「墓友（はかとも）」という面白い言葉に釣られて、台本を読む。（それも2回（^_^;;）コメディだ！白黒で割り切れぬ世事がいっぱい詰まっている。どんな展開をするのかと期待した。

演出の威力と役者の力量だろう。玄人受けする芝居だった。

終幕前の舞台上で演奏し、歌われた「Imagine」。こんな風に使うのか！と感激とともに、機関紙の例会紹介に載った歌詞で、舞台と一緒に歌っていた♪

「あのギターに、みんな揃わなくてもイイんだよ」翌日、劇団をお見送りしたときの女優さんのお話で大納得。だから、自由で、しがらみがなかったんだ～。粋な演出也。

七人目の墓友は、誰なんだろう？そんな問題提起で終演する。

フィナーレで、次から次へと、落ちくる桜の花びらが印象に残った。

花びらの 降り敷く宵や 墓ひとつ

【捕捉】桜の下をひとつの墓として、共有する。新しい墓の在り方を提示。

(3) からまる法則

今年は、サクラ三部作なのか？ (^_^)v

こんな風に副題を付けてみる (^_^;;

1月例会 死の予感・・・華やか

3月例会 終の棲家・・・安らか

5月例会 絆再び・・・懐かしさ

どの劇も、桜が芝居の背景にある。

よくよく日本人は、桜花が好きなのだ。

梶井基次郎の洞察を待つまでもなく、

桜の樹の下には屍体が埋まっている！

そして、坂口安吾の「桜の森の満開の下」に繋がっていく。

父と娘（弁護士）が並んでキャベツを切る姿に、今日のメインテーマを観た。

(4) みずてられた島

まず、当座、舞台から流れてくるミンミンゼミの鳴き声に違和感を覚える。劇中 3 回以上聞く。そちらに気を取られる。目の前で展開するドタバタ・ガミガミ劇よりも、気になって仕方ない。

伊豆大島なら、クマゼミでは？

さて、ミンミンゼミもいたのかな？しかし、クマもミンミンも、鳴くのは朝がメインだ。また、互いに競合する。だから、季節の中でも、互いに出現期を配慮する。

ところが、この芝居の主な背景は、夕刻だ。

それなら、アブラゼミだよなあ～（^_^;;

などなど考えていると、芝居の進行から置いていかれる。

※

思い切って、7月13日の「合評会」で投げかけてみる。

- ・えーっ、セミや鳴いてた？
- ・蝉が鳴いたのは、聞かなかったぞ！（波の音は聞いたけれど）
- ・そんなの芝居の展開と関係ないでしょ！
- ・架空のお芝居だから、そんなのどうでもありでしょ！

※合評会：芝居が終わって1週間後に開く演劇の感想を話し合う会。

どうも劇団員の方たちばかりだ（^_^;;

ところで、広島のパカの時（原爆投下時）に鳴いていたのは、クマゼミだと思う。それを、東日本人がつくる芝居や映画では、アブラゼミやミンミンゼミが登場する。環境錯誤も甚だしい。

今回の作・演出は、中津留氏だ。調べると、大分県生まれだ。

当然、西日本人だが、こうして合評する人たちも西日本人。それぞれの興味の有り様で、チェックが効かないのかなあ。政治・政治、人間・人間で、自然などどうでもイイのかな？

「市場優先・経済優先よりも、人間優先だ！」と標榜する割には、それらの基盤である自然には無頓着。どちらも困ったものだ。生きとし生けるものの命を大事にすることこそ、倫理の基本にあらねばならない。改めて、この言辞に思い至る。

そこで閑話休題。憲法づくりも大事だけれど、新たに独立国になるなら、まず一番は「国名」だよな！そんな話、出てきたのかな～（^_^;;

とまれ、役者陣の熱演には圧倒されました（^_^;;

どうもありがとうございました。

そして、昔観た「翼をください」の再演を乞います！

【捕捉】青年劇場の「翼をください」は、劇として秀逸だと思う。落ちこぼれ高校に通う兄と進学校に通う弟との葛藤を描いた作品。このモチーフは、吉田秋生作「海街ダイアリー」にも使われている。



図-1 ミンミンゼミの分布

(5) ミュージカル「青空の休暇」

あのKateという飛行機をどうやって飛ばすのかが気がかりだった。機体が持ち上がり、滑走して、エンジン音高く飛び立った。無事、ハワイの大空に飛んでよかった。

ただ「なぜ、周作の妻が自殺したのか？」の理由が飲み込めないままなのが心残りです。もちろん、生演奏がよかった♪です。

【捕捉】Kate（原意：純潔）とは、日本の爆撃機九七式三号艦上攻撃機の米国コード名。なぜか爆撃機は女性名。ちなみに、零戦はZeke（ジーク、原意：勝利）と呼ばれ、恐れられた。戦闘機は男性名。

(6) 吾輩はウツである

漱石・鏡子・吾輩・・・特にこの3人の絡み合いが面白かった。

当日、吾輩役今本洋子さんのご両親が広島から車で来られ観劇され、翌日の劇団お見送り後は、一家団らんを楽しまれたよし、ほほえましく感じた。交流会での役者さんとのお話も楽しかった。

そんな温かいひとの繋がりを実感できる、市民劇場と劇団との関係性が好きです。

(7) 三婆（さんばば）

「老い」を迎えて、これからあの4人はどうなるのだろう？ と心配になる。しかし、八百屋の若夫婦が近所に帰ってきてよかった。一方、あらぬ心配は、若夫婦の子ども役（子役）・・・学校、どうしてるんだろう？ 仲間はずれにされたり、いじめに遭ってなければいいのだが・・・存外、両親の知らぬところで苦労しているのが子どもだから (^_^;; (^_^;;

(8) 砦

春爛漫・・・いろいろな思いを込めて「砦」を観た。

「しっかり」した造りの舞台（芝居内容も含めて）であることに感動する。

あとのロビー交流会で、会員さんからの質問に室井知幸役の村井國男さんが答えた言葉が印象に残った。

実在した人間を演じる身として、室井知幸さんの「人となり」を研究して取り組んでいる。

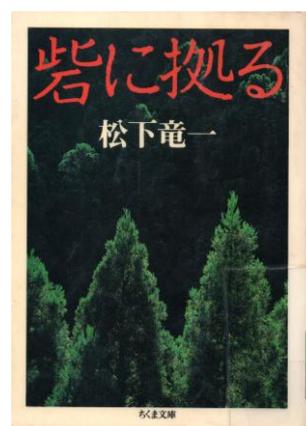
・・・ 私には、その言葉が救いであった。

単なる行政批判ではない、単なる奇妙な人物を取り上げただけではない。

そのあたりの「深さ」が救いだっただ。

また、交流会を含む全編を通して、藤田弓子さんの所作が癒しでした。感謝です！

【捕捉】筑後川上流のダム建設に関連して起こった「蜂の巣城闘争」をご存知だろうか？昭和28年の筑後川氾濫は、死者数147人、流出全半壊家屋12,800戸、床上浸水家屋49,200戸、床下浸水家屋46,300戸、被災者数54万人、田畑の冠水67,000ha、損害額450億円の大災害をもたらす。再被災を防ぐためのダム建設とそれに反対した男の話だ。原作松下竜一著「砦に抛る」がよくできた作品だ。（図-2）著者は、知幸さんの死後、奥様であるヨシさん取材し、また、実際にあったことを余すところ無く調査した。建設省の所長役で登場する人物も、原作では有り体に記述され、知幸氏と旅をするまでの仲になったとか、地元の女性を妻にしたとか、図-2 原作「砦に抛る」後には政府に請われて参事官にまでなったとか。



(9) もやしの唄

3月例会「砦」が骨太で深い芝居であっただけに、今回の「もやし」は、心配だった。案の定、出だしは新人：もやし君と押しかけ助っ人：九里ちゃんとの軽い会話から始まる。大丈夫かな～ (^_^)；

しかし、話が進むにつれ、内容の濃さを知る。昭和40年代の、時間がまだゆっくりと流れて、家族関係がまだ熱い時代のお話。恵五郎役の根本泰彦さん曰く「私は、『当て役』なんですよね～♪」小川未玲作・演出だが、彼女の父の実家を描いた作品で、恵五郎役をヤルのにぴったりな人と指名されたそうな (^_^)v というか、根本さんのイメージが主人公（未玲さんの伯父）に重なっているらしい。ご自身もフォーク世代なので、普通にギターも弾けるとか・・・♪

思えば、1月例会も3月も5月も、そして、7月例会「もし、終電に乗り遅れたら・・・」も、テーマは「家族」だと思う。今年は、家族4部作？

一方、終演後の交流懇親会では、「この劇は喜劇です！」の制作の弁で盛り上がる。喜劇専門であるテアトル・エコーの面目躍如と言いたいらしい。ちなみに、同じテーブルに座った9人に票を取ると・・・劇団のふたりだけが「喜劇」と投票 (^_^)； いろいろな喜劇があると制作答弁もあったが、みなさま、いかがでしたか？

それはともかく、心に残るいい作品でした。どうもありがとうございました。

最後に、九里ちゃんが愛しい恵五郎さんの妻になれてよかった、よかった (^_^)v

(10) もし終電に乗り遅れたら・・・

この演劇のポイントは、ニーナ役の女優だと思う。まず、美人でなけりゃあいいけない。だれが見ても美人でなけりゃあ、あのストーリーは成り立たない。

また、芝居上の年齢は19歳だ。そのうえ、原作者ヴァムピーロフが求める要求に応えるなら、威厳というか品格も求められる。ニーナの原義は「女帝」だ。そんな女優がいる

のか？きっと、「当て役」で決まっている？ 観る前の情報は、こんなところだった。

さて、1993年に、同じ劇を文学座公演「息子です こんにちは」（日本の題名）で見た。ブスイギン役が渡辺徹さん、ニーナ役が平淑恵さんであった。もちろん、演出も今回とは異なる。平さんがベットの上で飛んだり跳ねたりする演技に、この劇が本来観客に求めるものとは違うもの・・・私自身の人生ヴィジョン（行く末）を見た。終幕後は、まるで「悟った」みたいな感覚であった。それゆえ、この劇に対する思いは深い。ちなみに、この劇の原題は「長男」だ。

その視点で、今回の演劇を観る。

舞台装置は、重厚だ。5年間公演し続けていることを物語る。素晴らしい！そんなこんなで、演出・役者には、品という人間力みたいなものを求めたい。次回、この劇がどんな演出で観ることができるか？楽しみだ。

【捕捉】5年間、各劇団から選抜された役者さんたちが寝食を共にし、家族の如く演じてきた。その千秋楽が鳴門例会であった。終演時、感極まって涙を浮かべる役者さんも。

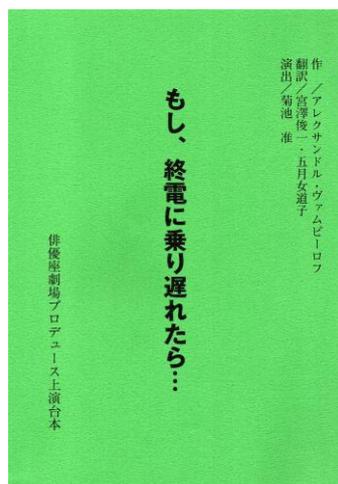


図-3 台本「もし、終電に」

(11) 柳橋物語

「恋」は下心、「愛」はなか心という。

「恋」は、自分のため。「愛」は、あなたのため。

この劇を「心の成長物語」とすれば、こんな時間経過だろうか？

おせん 恋恋恋恋恋恋愛

幸太 恋恋恋愛恋愛

庄吉 恋恋恋恋恋恋恋

時間の流れ →



写真-1 柳橋物語Tシャツ

ひょっと口にした「待っているわ！」・・・それが、おせんの人生の岐路になる♪

でも、私的には、なぜか、しっくりこないなあ～(^_^;;

そんな不完全燃焼で終幕する。おせんは、もっと自分中心の生き方でいいと思うのだが・・・と、いろいろ考えを巡らせていただけの劇でした。

前進座の熱演に完敗、いえ乾杯です(^-^)/U

【捕捉】原作者：山本周五郎は、主人公おせんをとことん劣境遇に迫いやる。その先に見えるものを、彼が狙ったのでは？ と後になって思い至る。歌舞伎の世話物の姿を借りて、庶民の生活・実状を描き出す大火・洪水・地震・青空と雲など映像表現が見事であった。

5. おわりに

読んでいただいたお礼にかえて・・・

実は、今回私が書いた、ほとんどの内容は鳴門市民劇場HPにある。過去、鳴門市民劇場が徳島市民劇場の地域例会だった頃から現在まで24年間の資料をアーカイブスとして保管している。手作りなので、ちょっと迷路のようだが、探索するといろいろな面白いものが見つかる。

一度ぜひ訪れてみてください。

以上

参 考

- 1 鳴門市民劇場ホームページ
<http://www.nsg1998.org/>
- 2 鳴門市民劇場フェイスブック
- 3 「ミンミンゼミの分布」(環境省自然環境局生物多様性センター)
<http://www.biodic.go.jp/reports/5-2/n018.html> を一部抜粋
- 4 松下竜一著「砦に拠る」(ちくま文庫)
- 5 上演台本「もし、終電に乗り遅れたら・・・」(俳優座劇場プロデュース)
- 6 鳴門市民劇場 20 周年記念誌「絆」・独立 10 周年記念誌「絆」



図-4 鳴門市民劇場創立 20 周年を
記念して作製した記念誌「絆」